

- 4 中学校国語

- 4 中学校国語

- (1) 成果と課題
- (2) 改善が見られた問題
- (3) 新たに成果が見られた問題
- (4) 引き続き課題である問題
- (5) 新たに課題が見られた問題
- (6) 質問紙調査
- (7) 今後の取組

成 果

中学校国語

課 題

改善が見られた内容

「竹取物語」の現代語訳に対応する古文を選ぶこと

関連問題 A 9 七

発表の中で、オカリナを演奏するタイミングの理由を、ノートの内容と関係付けて書くこと

関連問題 B 1 三

引き続き課題である内容

文章とグラフから2020年の社会を予想して、自分は社会とどのように関わるのかについて書くこと

関連問題 B 2 三

物語の最後の一文はあった方がよいかどうかについて、自分の考えと根拠を書くこと

関連問題 B 3 三

新たに成果が見られた内容

「永」という字を、毛筆を用いて楷書で書くこと
敬語「参ります」を理解し、適切に使うこと

関連問題 A 2 二 A 9 三ウ

事前の準備を基に、聞き手の反応に合わせた発表をすること

関連問題 B 1 一

新たに課題が見られた内容

「青い(形容詞)」と「青さ(名詞)」の品詞の違いを理解すること

関連問題 A 9 四

雑誌の記事を読んで、要旨を捉えること

関連問題 B 2 二

- 4 (2) 改善が見られた問題

中学校国語

改善された課題

A9七(本県75.7%, 全国75.3%, +0.4)

1 【漫画の一部】のある部分、【古典の文章の一部】のどの部分と対応していますか。対応している部分として最も適切なものを、【古典の文章の一部】の線部⑦から⑩までのの中から一つ選びなさい。

「何事思ひたまふぞ。おぼすらむこと、何事ぞ」と言へば、「思ふこともなし。物なむ心細くおぼゆる」と言へば、翁、「月な見たまひぞ。これを見たまへば、物おぼす気色はあるぞ」と言へば、「いかで月を見ではあらむ」とて、(やはり月が出ると、縁側に出て座り、ため息をついている。)

【漫画の一部】
(省略)
【古典の文章の一部】

七次は、【漫画の一部】とその場面の【古典の文章の一部】です。【古典の文章の一部】の()の中には現代語訳で書かれています。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

「竹取物語」の現代語訳に対応する古文を選ぶこと

今後更に力を伸ばすために

本設問を活かした学習指導例

古典に親しむための指導の工夫

- ・「竹取物語」の本のジャンルは何か考える。
発問例「自分なら、書店のどのコーナーに並べますか。」
「かぐや姫」の話を想起し、ミステリー、SFなど、どのジャンルが自分なりに予想する。
「人物相関図」の作成を通して、あらすじをとらえる。
- ・書店のどのコーナーに並べるかについて、自分の決めた根拠を、古文の文中の言葉や場面から探し、自分の考えの理由を読書経験や体験と関連付けて説明する。

熊本県学力調査における関連問題

平成26年度県学力調査の中1問題3で、狂言「神鳴り」について、古文と現代語訳の対応を考えて要約する問題を出題しています。

- 4 (3) 新たに成果が見られた問題

中学校国語

問題の趣旨

B1ー(本県75.6%, 全国73.2%, +2.4)

発表の流れ	その他の情報 状況に応じて使用する
聞き手を見てから話し始める ○最初の言葉	
<ul style="list-style-type: none"> オカリナはハトの形に似た楽器。 イタリアで生まれた世界に広まった。 イタリア語では、「小さなガチョウ」という意味である。 	ガチョウの頭の形に似ているなど様々な説がある。
問いかけて間を置く	
以下省略	

1 森田さんは、国語の時間に、自分の特技についてスピーチをする学習に取り組んでいます。
次は、発表の際に使用する【ノート】と【フリップ】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

ー 森田さんが、【ノート】の「その他の情報」の欄に書いたことは、どのような場合に役立てることが出来ますか。次の1から4までのうち、適切なものを二つ選びなさい。

1 発表の順番を場の様子に応じて変える場合。
2 聞き手から出された質問に答える場合。
3 時間に余裕があるときに付け足して説明する場合。
4 言葉の抑揚や強弱、間の取り方を変える場合。

事前の準備を基に、聞き手の反応に合わせた発表をすること

今後更に力を伸ばすために

本設問を活かした学習指導例

目的や状況、相手に応じた資料の効果的な活用
「スピーチで思いを伝えよう」

- ・話の要点を明確にする。
- ・聞き手の理解を促すための資料を準備する。
- ・資料や話は、聞き手の反応や時間的な余裕に応じて追加や変更できるものも準備する。
- ・時間を計りながら、ペアや班で練習する。
- ・練習後に、分かりやすかったもしくは分かりにくかった点について、内容や資料を根拠とし、理由を交えて具体的に助言する。

熊本県学力調査における関連問題

毎年、県学力調査では、聞き取り問題で発表や話し合いの工夫に関する問題を出題しています。平成26年度の中2問題1では、事前の準備で発表メモを作る問題を出題しています。

- 4 (4) 引き続き課題である問題

中学校国語

課題

複数の資料を読んで問題意識をもったり新たな発想を得たりするなど適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書くこと

【誤答例】 ・設問の自分が社会にどのように関わっていきたいかを、具体的に書いていない(45.0%)

・資料の内容を適切に書いていない(25.9%)

課題となった問題

B2三(本県24.1%, 全国23.0%, +1.1)

2 次の資料は、【A ウェブページの文章】、
【B 日本の人口推移を表したグラフ】(予想を含みます。)、【C 雑誌の記事の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

三 あなたは、二〇二〇年の日本は、どのような社会になっていると予想しますか。また、その社会にどのように関わっていきたいと思いますか。あなたの考えを、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 資料【A ウェブページの文章】、
【B 日本の人口推移を表したグラフ】、
【C 雑誌の記事の一部】の中からいずれか二つを選び(どの資料を選んででもかまいません。)、それらの内容を取り上げて具体的に書くこと。

条件2 「二〇二〇年の日本は、」に続けて、
八十字以上、百二十字以内で書くこと。

指導のポイント

誤答について

多様な情報に触れながら、問題意識を持つことや新たな発想を持つことに課題があります。また、自分が予想したことや自分がやりたいことなどを具体的に書くことに課題があります。

指導について

複数の本や資料から得た情報を、自分と結び付けて考えることが重要です。その際、資料に書かれていることを正確に理解した上で、感じたことや考えたことを他の人に話したり、文章に書いたりして、新たな気付きや問題意識を明らかにすることが大切です。

自分の考えを深めたり広げたりするには、図書館等を利用し、主体的に情報を探することも必要です。

【参考】平成24年度全国学力学習状況調査問題

【小学校】B3四

中学校国語

課題

名詞が主語となるなど、それぞれの品詞が文のどのような成分になるかを理解すること

- 【誤答例】
- ・形容詞と解答(23.5%)
 - ・形容動詞と解答(34.4%)

課題となった問題

A9四(本県32.8%, 全国33.7%, -0.9)

4 3 2 1
形容動詞
形容詞
動詞
名詞

イ 大きな器の青さが私の目を引きつけた。
ア 大きな青い器が私の目を引きつけた。

私は伝えたい内容が明確になるように、次の文をイの文に変えました。イの文の方が、器の色が特に目を引きつけたことが伝わります。これは「青い」という()を、「青さ」という()に変えて、主語にしているためです。

四 次の文章の()と()に当てはまるものとして最も適切なものを、あとの1から4までのの中からそれぞれ一つ選びなさい。

指導のポイント

誤答について

名詞が主語の場合など、品詞が文中でどのような成分になるかの理解に課題があります。

「青い」という単語がもつ文法的な役割や品詞の名称の理解に課題があります。

指導について

単語を正しく類別するためには、文法的な知識として学習するだけでなく、具体的な文章を通して考えるように指導します。

例えば、伝えたい内容を明確にするためには、どんな語順にすればよいか検討させるとともに、それぞれの単語が文の中でどんな働きをしているのか考えさせます。これは目的に応じた文章を書くことにもつながります。

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域の学習の中で、単語の類別について意図的に取り上げることも知識の定着を図るうえで大切です。

生徒質問紙

多くの生徒が、記述式問題の解答を最後まで書こうと努力しています。一方、話の組み立てを工夫して発表したり、考えの理由が分かるように書いたりすることは、全国平均より低い傾向にあります。

今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、最後まで解答を書こうと努力しましたか。

「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」

- 本県77.3%、全国76.4%、差 + 0.9
(昨年度より縮小)

国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫していますか。

「当てはまる」

- 本県10.7%、全国14.4%、差 - 3.7
(昨年度より拡大)

国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか。

「当てはまる」

- 本県18.1%、全国22.0%、差 - 3.9
(昨年度より拡大)

学校質問紙

目的や相手に応じて話したり聞いたりする取組の実施状況は高い傾向にあります。一方、様々な文章を読む習慣を付けることや、基礎的・基本的な事項を定着させる授業の実施状況は、低い傾向にあります。

国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか。 「よく行った」

- 本県23.7%、全国21.3%、差 + 2.4
(昨年度より縮小)

国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか。

「よく行った」

- 本県20.1%、全国25.4%、差 - 5.3
(昨年度より拡大)

国語の指導として、前年度までに、漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業を行いましたか。 「よく行った」

- 本県50.3%、全国60.3%、差 - 10.0
(昨年度より縮小)

- 4 (7) 今後の取組

学力調査結果の分析から明らかになった国語科の課題改善のため
次の点に取り組みましょう。

これまでの継続的な課題

複数の資料から必要な情報を選び、それを活用して自分の考えを具体的に書くこと
文章の構成や展開を踏まえて、根拠を明確にして自分の考えを書くこと

新たに明らかになった課題

単語の品詞の類別について理解すること
雑誌の記事を読んで、要旨を的確に捉えること

取組

授業の中で

課題解決の方法や展開をイメージした板書をする
こと
振り返りやまとめは、めあてと照らして行うこと
自分の考えを表現する際は、目的や条件に応じ
て、考えの根拠と理由も書かせること
単元後に、練習問題に取り組むこと

日々の取組の中で

授業内容に応じた課題を家庭学習で出し、その
取組は確認すること
語彙を豊かにするために、辞書で調べる習慣を
身に付けさせること
読書量を増やすために、朝読書や全校一斉読
書等の読書活動を推進すること